

令和 7 年 第 9 回

教育委員会定例会会議録

とき 令和 7 年 1 0 月 1 4 日

品川区教育委員会

令和7年第9回教育委員会定例会

日 時 令和7年10月14日(火)

開会：午後3時

閉会：午後4時31分

場 所 教育委員室

出席委員	教 育 長	伊崎	みゆき
	教育長職務代理者	吉村	潔
	委 員	稲垣	百合恵
	委 員	濱松	誠
	委 員	吉原	幸子

出席理事者	教 育 次 長	米田	博
	庶 務 課 長	船木	秀樹
	学 務 課 長	石井	健太郎
	指 導 課 長	酒川	敬史
	教育総合支援センター長	丸谷	大輔
	教育施策推進担当課長	唐澤	好彦
	特別支援教育担当課長	新井	正康
	品川図書館長	三ッ橋	悦子
	学校施設担当課長	荒木	孝太
	統括指導主事	齊藤	隆光
	統括指導主事	石原	朋之

事務局職員	庶 務 係 長	安藤	尚之
	書 記	田島	希望
	書 記	羽田	優太

傍 聴 人 数 なし

そ の 他 品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき、会議の一部を
非公開とした。

次第

- 協議事項 1 令和 8 年度予算要求について
- 報告事項 1 事務局職員の任免等について（休職）
- 報告事項 2 令和 7 年度（8 年度採用）品川区立学校教育職員採用候補者選考状況について
- 報告事項 3 令和 7 年度品川区学力定着度調査および令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果について
- 報告事項 4 教職員の任免等について（休職）
- 報告事項 5 教職員の任免等について（退職）
- 報告事項 6 区立学校におけるいじめの重大事態の発生について
- その他 令和 7 年 1 2 月行事予定について

令和7年第9回教育委員会定例会

令和7年10月14日

【教育長】 ただいまから、令和7年第9回教育委員会定例会を開会いたします。

署名委員に、吉村教育長職務代理者、濱松委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

初めに、会議の持ち方についてですが、日程第2、報告事項1、事務局職員の任免等について（休職）、日程第2、報告事項4、教職員の任免等について（休職）、日程第2、報告事項5、教職員の任免等について（退職）、本件は人事に関する案件ですので、品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき、非公開の会議といたしますが、御異議ありませんか。

（「はい」の声あり）

【教育長】 異議なしと認め、本件については、全ての日程の終了後に審議をいたします。

それでは、本日の議題に入ります。

日程第1、協議事項1、令和8年度予算要求について。本件は、区の事務事業に係る意思形成過程における案件ですが、事務局としては、会議の扱いについてどのように考えますか。

庶務課長。

【庶務課長】 協議事項1、令和8年度予算要求について、につきましては、区議会の議決前の案件でございます。したがって、公正または適正な意思決定を確保する観点から非公開の会議とすることが適切であると判断いたします。

【教育長】 庶務課長より説明がありました。

本件は、品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき、非公開の会議とし、会議日程を変更し、全ての会議の終了後に会議を開くこととしますが、御異議ございませんか。

（「はい」の声あり）

【教育長】 異議なしと認め、本件については、そのように決定いたしました。

次に、日程第2、報告事項2、令和7年度（8年度採用）品川区立学校教育職員採用候補者選考状況について、説明をお願いします。

指導課長。

【指導課長】 それでは、私から、令和7年度（8年度採用）品川区立学校教育職員採用候補者選考状況について、資料3を元に説明いたします。

まず、第一次選考でございますが、令和7年7月26日の土曜日に実施しました。

申込24名、辞退5名、受験19名、そのうち合格者10名といたしました。なお、今年度は、大学3年生前倒し選考通過者1名が入っております。

次に2、第二次選考でございます。同年8月30日土曜日に実施いたしました。

対象者10名中、受験者10名、うち合格者8名としました。

3、採用候補者面接、同年9月27日土曜日に実施しました。対象者8名、辞退者1名、受験者7名、うち内定者5名としているところでございます。

説明は以上でございます。

【教育長】 説明が終わりました。

質疑はございますか。

濱松委員。

【濱松委員】 ありがとうございます。

そもそものこの数値だけとはあまり、前から言っているように、きつい言い方をすると、数字は数字だけなのでそれはいいのですけれども、この受け止めの話をもう箇条書でいいから、上なのか下なのかに入れておいてくださいという……、今から聞くのですが、どうでしたかという質問が1点目。

2点目は、前年、前々、例えば2025年、2025だから、2024、2023、2022、コロナの関係があるので難しい部分が、純粹に比較ができるかできないかは置いておいて、その比較の数字はいかがですかというのを、これは質問する時間がもったいないので、ここに書いておいてもらえると、うれしいですという話なのですけれども、今日は書かれていないので、教えてもらえますか。

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 受け止めということでございますが、受験者、年齢層、非常に幅広くおりましたが、経験者、未経験者双方おりましたが、やはり経験者はその経験値、それから、未経験者はその人柄を中心に見させていただいて、優秀な人材が採用できるのではないかとというふうに思っております。

それから数値については、これは、今後掲載できるようにしていきたいと思いますが、およそ、3人から5人の推移で採用を行っているところでございます。

【教育長】 濱松委員。

【濱松委員】 ありがとうございます。

これは前に半年か3か月前かは忘れましたが、稲垣さんやこの教育委員と事務局の皆さんとも話して、例えば申込総数が、超具体的に言うと20、例えば第一次選考の7月26日に24名ということが多いか少ないのか。これは別に事務局がどうか、誰々がどうかではなくて例えばです。例えば、これは民間も含めて、何人採りたいから、大体いつもこのぐらいのパーセンテージで受験率があたり、辞退者があたりするよねというところから、既に逆算をもちろんされていると思うのですが、だから、今年は質も量も採りたいよねとなるから、やっぱりこのぐらいの申込者数を狙おうというところがあると思っていて……。

皆さんも、もう分かっていると思うのですけれども、なので、そこをそれは別にでも誰かに約束する数値ではなくて、少なくともこういう懇談会のときでもいいし、そうじゃないところでもいいので、結局その数値がないと、どこに向かっているのか、この手法・手段でいいのだったかというのがあると思うので、一旦お願いをしたいのは、数値は書くというのは、それは何かもう書いたらいいで終わりではなくて、やはりいい人を採りたいし、できるだけそれがたくさん採れたほうがいいという、もうこれは取り合いの話なので。ということかというと、量と質をしっかりと採っていくのか、目指すものは何なのか。それはビジョンであったり、数値であったり、質であったりというものは、やっぱりこれから何が一番課題かということ、いい人が採れなくなるということは、もう釈迦に説法なので

すが、なのでそこはじゃあどうしようとする、いいきっかけ、最大のきっかけの一つだと思いますから、そこはぜひ全員で考えていくきっかけにしたいと思いますので、来年度のときには、本当に3か月、半年もせっかくいい議論ができたと思うので、何かその部分を一緒に考えていければというふうに思います。

以上です。

【教育長】 ほかにはございますか。

吉村職務代理者。

【吉村教育長職務代理者】 今回の濱松委員のちょっと関連なのですけども、たしか、区の固有教員については、受けてくる人があまり多くないのでという話が去年とか、今年あったような気がしていたのですが、今回の申込総数24名というのは、例えばこれは去年に比べてどうなのでしょう。多いのか、減ったのか、増えたのか。それから、この最後、9月27日の段階で、これは辞退が1名いたのですが、この辞退者というのは、あれですか。ほかのどこか自治体で合格したとか、何かそういうようなことなのでしょうかと。というのが2つ目と、3つ目は、3年生前倒しが1名通っているということ、これはあれですか。来年はこの学生は面接だけやるという、都と同じということで、よろしいのでしょうか。

以上、3つお願いします。

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 受験者数の比較ですが、前年に比べると微増でございます。

【吉村教育長職務代理者】 微増。

【指導課長】 はい。それから辞退者でございますが、これは他の自治体で既に合格をしたものでございます。それから、前倒し選考については、来年度は論文を作成する段階から一次選考の途中から参加ということになっております。

以上です。

【教育長】 吉村職務代理者。

【吉村教育長職務代理者】 すみません。もう一つだけ。

採用、最終的な9月27日が内定者5名となっていて、例えば、東京なんかはこの後に最終合格発表が出ているのですけれども、この5名の中の内定者が辞退するという、そういうことはあるのでしょうか。

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 そういったことも想定されましたが、今回のこの5名については、今のところ、品川を辞退するというような話はこちらに来ておりません。

【吉村教育長職務代理者】 分かりました。ありがとうございます。

【教育長】 ほかにはございますか。よろしいですか。

では、令和7年度(8年度採用)品川区立学校教育職員採用候補者選考状況については、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 では、本件は了承いたします。

次に、日程第2、報告事項3、令和7年度品川区学力定着度調査および令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について、説明をお願いします。

指導課長。

【指導課長】 それでは、私から、令和7年度品川区学力定着度調査および令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について報告いたします。

資料4でございます。

それでは、各調査結果について個別に説明してまいります。

令和7年度品川区立学校学力定着度調査から入ります。

資料の1枚目を御覧ください。1、調査日から、4、調査内容についてです。

今年度は、令和7年4月15日に、区立学校、区立の小学校31校、中学校9校、義務教育学校6校の2年生から9年生において実施しました。

2、3年生は国語と算数の2教科、4、5年生は社会と理科を加えた4教科、6年生から9年生はさらに英語を加えた5教科の調査とし、前年度までに学習をした内容の定着を測る調査となっております。教科に関する調査のほか、生活習慣や学習環境に関する調査を実施しております。

次に、資料上段、5、各教科の平均正答率についてです。

各表の右側が全国の平均正答率、左側が品川区の平均正答率となっております。また、黄色の升は区の平均正答率が全国を上回った教科、ピンクの升は区の平均正答率が全国を下回った教科を示しています。

小学校・義務教育学校（前期課程）においては、前年度同様、全学年・全教科で全国の正答率を上回りました。

中学校・義務教育学校（後期課程）においては、社会科が第8学年で、理科が7年、8年生で、全国の正答率を下回り、課題があることが分かります。

次に資料中段6、教科に関する調査の結果概要についてです。

赤の丸数字は教科の目標値になります。目標値とは、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ児童・生徒に期待する正答率の目標です。例として、5年生の各教科の正答率分布を示しています。この結果から、5年生の国語、社会、算数は約7割の児童が目標値に達しており、5年生の理科は約5割の児童しか目標値に達していないことが分かります。

右側は、課題が見られた中学校及び義務教育学校後期の生徒の理科の正答分布をグラフで示したものです。このグラフから7年生と9年生の理科は約5割、8年生の理科は約4割の生徒しか目標値に達していないことが分かります。課題の内訳としましては、特に、用語の理解などの知識・技能の定着が不十分というものでございました。社会科においても同様の傾向が見られました。

次に、資料下段右に、成果が見られた質問を示しています。

これは、同時に行いました意識調査の中で、特に品川区の教育施策に関連して、良好な回答が得られた質問の一部です。「学校の規則や、クラスで話し合って決めたことを、守っていますか」という質問において、全ての学年で「いつも守っている」「だいたい守っている」と肯定的な回答をした児童・生徒の割合が全国の割合よりも高いという結果が得られました。義務教育9年間を通した系統的な市民科の学習により、秩序形成能力や公德性等の資質・能力が高まっていると捉えることができないかというふうに考えております。

次に、資料の2枚目を御覧ください。

質問紙と正答率分布のクロス集計を行いました。クロス集計では、授業改善に関連した質問を充実させております。

資料上段左側を御覧ください。

「あなたは、授業や日常生活の中で、不思議だな、どうしてだろう、と思ったことを調べていますか」という質問についての6年生及び9年生の回答の肯定率と正答率分布とのクロス集計です。

「いつも調べている」「だいたい調べている」と肯定的な回答している児童・生徒ほど正答率が高い傾向が現れました。

次に、資料上段右側を御覧ください。

「テストでまちがえたときは、なぜまちがえたのかを考えていますか」についての、6年生及び9年生の回答の肯定率と正答率分布のクロス集計です。

これについても、「考えている」「ときどき考えている」と肯定的な回答をした児童・生徒ほど正答率が高い傾向が現れました。

資料下段を御覧ください。

各教科における児童・生徒が主体となっていく、国語では話し合いですとか、社会では資料を使って自分の考えをまとめるなどの活動と正答率のクロス集計でございます。どの教科においても、「とてもそう思う」と答えた児童・生徒の正答率が高い傾向が伺えます。

これらの結果から、単元や1単位時間の中で、児童・生徒の興味関心に応じた課題の設定や、その解決に向けて自分自身で考えたり調べたりする学習活動、考えを表現する機会などを設けること、自身の学習の成果や課題を振り返ることなどが有効であることが分かり、引き続きそうした視点で授業改善を図っていく必要があると考えています。

資料3枚目と4枚目は全学年、全教科の結果となります。

続きまして、全国学力・学習状況調査の結果について、説明いたします。

資料は5でございます。

本調査は、令和7年4月17日に6年生と9年生で実施いたしました。教科は、国語と算数、数学及び理科です。

今年度の調査の特徴としては、9年生の理科がC B T、コンピュータベースドテストで行われたというところです。理科では1人1台端末を利用して実施されました。

資料上段右、5、各教科平均正答率を御覧ください。

6年生、9年生ともに全ての教科で、全国、東京都の平均正答率を上回る結果となりました。なお、C B Tを行った9年生の理科の集計では、I R Tという受検者の能力をより正確に評価する系統的なテスト理論が採用されています。この理論を使うと異なる問題から構成される試験調査の結果を同じ尺度、物差しで比較できるというものです。また、これにより、年度をまたいで児童・生徒の学力比較ができるようになりました。標準スコアが500となっており、最大や最小のスコアはありません。

資料中段は、6、教科に関する調査の結果概要で、品川区の正答数分布の棒グラフに東京都と全国の正答数分布の折れ線グラフを重ねたものとなっております。

資料左下、7、成果が見られる質問を御覧ください。

全国学力・学習状況調査では、これまで説明しました学力の状況と併せて、質問紙による意識調査を実施しております。本調査では、6年生については71問、9年生について

は70問の質問を実施しています。

品川区の児童・生徒においては、どの質問項目についても非常に肯定的、前向きな回答を行っており、全国及び東京都に比べて肯定的な回答率が低い質問項目は数問程度にとどまります。

掲載したのは、特に有意に高い結果が得られた質問と回答結果の一部です。初めに、質問番号6「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対し、「とてもそう思う」と答えた児童の割合は63.1パーセントでした。

質問番号48「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこか伝えてくれますか」という質問では39.9%。

質問番号16「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問では45.8%。

質問番号58「算数の授業で、どのように考えたかについて説明する活動をよく行っていますか」という質問は48.8%となっており、それぞれ東京都や全国の値を上回っております。

下の下段の質問番号28「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度利用しましたか」というICT機器の利用に関する質問では、「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」が50.3%となり、東京都や全国の値を大きく上回っております。

質問番号29-3「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理することができると感じますか」という質問では、「とてもそう思う」と答えた児童の割合は43.2%。

質問番号30-6「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか」の(6)「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」という質問では56.4%と半数以上が「とてもそう思う」と回答しており、活用が図られて、その効果を実感している状況があることが伺えます。

9年生においても、それぞれ同様の結果となりました。

これらのことから、品川区の教育、教員は児童・生徒の良いところを認め、また、児童・生徒の良いところや、前よりもできるようになったところを、児童・生徒に伝えようと努めているとともに、それらを子どもたちが実感していること。また、多くの子どもがICTの利便性を理解しながら積極的に活用し、学び方を考えたり表現を工夫したりしながら学習を進めているのだということが分かりました。

説明は以上でございます。

【教育長】 説明が終わりました。

質疑はありますか。

濱松委員。

【濱松委員】 ありがとうございます。

幾つか質問があるのですが、1つ目は、例えば品川区学力定着度調査のところもそうですし、状況調査もそうですけれども、23区の中での、ほかの22区というか、何か比較はすぐには出てこないのですよね。次回もし、教えてほしいです。何でもこういうことを言

うかという、まず品川区、あれだと。あるときは東京都、で全国とあると思うのですが、これは別に戦いでは本来はないのですが、やはり比較となると、やはり比較表なので、高い低いでハイライトがされているように、その比較をされているわけですから、例えば、1位に意味はあるのか、ないのかの議論というのは、今日は教育長の皆さんの前でもしませんが、どこどこと比べて高いんだねとか、どこと比べて低いんだねと比較表があるぐらいですから、より精緻な、同じ状況・環境の中での比較表というか、それは数値があればなのですから、見せてもらったほうが、あまり環境が違い過ぎるとかだと、それはそれでいいのですけれども、別にその環境のところはこういう点数だし、こういう環境のところはこういうのでいいのですが、もうちょっと似たところのところが欲しいなと、それは恐らくは23区じゃないかなと思ったので、申し上げた次第です。

次までにというか、また来月までにあれば教えてください。

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 まず結論から申し上げますと、両方とも23区の比較についての情報はないです。それから品川区の学力定着度調査のほうは、そちらのほうは、こういった団体がエントリーしているかということすら情報は得られないものなので、情報提供は難しいところになっております。

【教育長】 よろしいでしょうか。

濱松委員。

【濱松委員】 ありがとうございます。仕方なしですね。分かりました。

2つ目が、分析もされていて、より品川区でこういうことができているから、ある意味いいよねというのは、私も理解もしますし、現場の先生方も頑張っておられたり、事務局の皆さんが頑張っておられることも理解はする中、なるほど、と思うのですけれども、言いにくい部分もあると思って、ある意味、そこを言っていたほうがいいと思うのですが、もうちょっとここはこうだということを、ピンクの部分でもありますし、ピンク色の部分でも今回資料上では書けなかったところは、どういうところがありますか。要は、課題点とか改善点で、ここは例年続いているのだよね、あるいは、今回ぽこっと出てきたんだよねでも幾つかあると思うのですが、言いづらいことというのは、これはもちろん公開される場所ではありますが、ここは、だからこそ、よりこうしていきたいというのは、示していかないといけないと思うのですけれども……。

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 先ほどもちょっと申し上げたことと重複する部分はあるのですが、知識、理解、技能面、用語の記憶、そういったところが理科と社会では課題となっております。これは改善を図るべく、全ての小中学校、義務教育学校を指導主事と教育アドバイザーが回って、理科と社会科の授業を見た後、授業をした先生とその学校の先生方が参加して協議会を行って、この結果に対する改善策の授業としてどうだったか、それがどういうふうな影響を今後与えるかというような協議会も行っております。

あわせて、このアドバイザーと指導主事がスライドを用いて、この結果も含め、こういうふうに授業を変えていくといいのではないのでしょうかというような提案といいますか、指導・助言もさせていただいているところがございますけれども、学力定着度調査、品川のほうですと、理科と社会がこういった課題で出てくる一方で、全国のほうですと、そこ

までの課題ではないというような結果も見られるところですので、そういった学校へのアナウンスを着実に進めていくしかないかなというふうに、今思っているところでございます。

【教育長】 濱松委員。

【濱松委員】 もう1点なのですが、すみません、非常に重要だと思うので。

この品川区学力定着度調査もそうですし、そのもう1個下もそうかもしれませんが、前から私は、あるいは議論を幾つか懇談会も含めてした中で、資料1の調査内容の教科に関する調査というところと、生活習慣や学習環境に関する調査の2つ。1、2があると思っているのですが、私は提案したいのは、ここにウェルビーイングという要素を入れたほうがいいと思っています。これはもしかしたら検討いただいているかもしれませんが、これから検討の俎上に載るかもしれないと思っています。なぜかという、やはりこういう現在地を測るために、学力定着度調査等があり、これは高いか・低いかというのは、あくまでも比較というか、比較表はあるのだけれども、参考程度にだったり、より見たい人は見たかったりという現在地というのが大事だと思っているので、しっかりこの中にウェルビーイング的な、またこれもずっと議論はしていますが、心の豊かさとか心身の健康みたいなものを、1年に1回では私はないと思うのですが、本来は学期ごとにやったほうがいいと思うのですけれども、なぜかと言ったら、半年後にしか調査の結果が出ないのだったら遅過ぎて意味がないので、とはいえ、そういう生活習慣等まで書いているので、調査まであるのであれば、ここにウェルビーイング的な要素を入れるという考えがあると思うのですが、このあたりはどう考えますか。

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 まず、結論から申し上げますと、このウェルビーイングについては測っていくべきものというふうに考えております。

品川区立学校の学力定着度調査も、この意識調査の部分、それから全国の意識調査の部分、それから、前回の教育委員会でお話ししました児童・生徒アンケートの部分、それから、センターのほうでやっている部分でいろいろ重複がございまして、これを整理をすることを含めて、ウェルビーイング、子どもたちのウェルビーイングを測る調査というのは、この中でやるものなのか、独立して調査を行うのか、全体として考えてまいりたいと思っているところでございます。

【教育長】 濱松委員。

【濱松委員】 非常に、私が言うのではないですけれども、前向きな御検討いただけるということで大変心強く、それから品川区の方針とまさしく一緒だなと思って、教育委員としてもうれしく思っています。

最後加えて言うと、これはあくまでも子どもたちの点数の結果でちょっとこの本論とはそれますが、やはり先生方のウェルビーイング、ちょっとウェルビーイングに寄りますけれども、そんなところも同時に御検討いただけると幸いです。

私からは以上です。ありがとうございました。

【教育長】 ほかにはございますか。

稲垣委員。

【稲垣委員】 ありがとうございます。

この学力調査の結果なのですけれども、昨年と比べてどうだったのかなというのを少し知りたいというのがあって、というのも、理科、社会、たしか去年見せていただいたときも、全国を下回っているという結果があったと思うのです。対策をされている、されていくというお話があったのですけれども、先ほど今お話ししたような対策を取られていると思うのですが、その結果が上がり切っていないという状況で、その対策の評価と、それを踏まえて、ここから先はどうするのかという方向性が、何か考えているものがあれば教えていただきたいのと、あともう一つ。一番最後の資料5のところで、成果が見られる質問というところは見せていただいたのですが、逆に低かったもの、どういうところが品川区の教員の方は苦手なのかという、どういうところが低い回答が出たのかというのがもし分かれば、教えていただきたいなと思います。

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 昨年度も理科、それから社会は課題が見られたというところですが、今年度は、その結果よりもわずかによくなっているという結果ではありますけれども、これが教育委員会と学校が連携して、授業改善に取り組んだ成果かどうかという検証については、またその集団特有の課題なのかというのもありますので、もう少し時間をかけて見ながら、同時に授業改善は常に前向きに進めていきたいというふうに考えているところでございます。

それから、意識調査で課題が見られたといいますか、有意に低いというものは、ほぼありませんでした。少し全国や東京都から下回るというのが、児童については、将来の夢や目標があるか。人が困っているときに進んで助けているか。それから、いじめはどんなことがあってもいけないことだと思うか。人の役に立つ人間になりたいと思うか。71問中結果としてはそのぐらいでございます。

生徒のほうに参りますと、70問中、有意に低いというものはやはりなくて、わずかに低いというのが1問だけ、将来の夢や目標を持っているか。

以上でございます。

【稲垣委員】 ありがとうございます。

【教育長】 ほかにはございますか。

吉村職務代理者。

【吉村教育長職務代理者】 今の点は私も聞きたかったことなので、ありがとうございます。

質問が1つと意見なのですけれども、この品川の学力定着度調査の内容は、一応今の3つの資質・能力について問う、そういうテストになっているのでしょうか。要するに、知識・技能が中心なのか、それとも、いや思考力とか表現力とかそういうのも問うようになっているのか。あるいは、学びに向かう力というのがあるけれども、そういうところも問う問題になっているかどうかというのが、まず1つ目の質問です。

意見なのですけれども、品川区の学力定着度調査を2枚目のほうの資料を見ると、各学年教科別にデータが分類されていて、A層、B層、C層、D層というふうに、出てきているのですが、もうまさにウェルビーイングというか、「誰一人取り残さない」という言葉をさんざん使っているのだとすると、このD層ですよ。D層の子どもに対して、これは教育委員会もそうなのだけれども、各学校がこのD層について、来年度、どういう改善、具

体的な改善策を取っていくのかということ、これは今から各学校に改めてお話をして、「誰一人取り残さない」だから、ここに何をやるか。それをちゃんと保護者に説明する、あるいは、ホームページで公表するということをやらないと、やはり「誰一人取り残さない」というのが何か言葉だけが浮いてしまうような気がするのです。

そうならないように、各学校がここに注目をして、今、品川が教育、こういう方針で進めようとしているということだから、このD層に対する、どういう具体的な、例えば算数が、非常にD層が多いというなら、算数の授業時数を増やすとか、そういう具体的なことを言わないと、何かあまり方針は方針、実態は実態と、かけ離れてしまうような気がするのです、そこはぜひ教育品川の方針と併せて各学校に指導してもらいたいのかなというふうに思いました。

以上です。

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 まず、観点でございますけれども、知識・技能と、それから思考力・判断力・表現力については、数字で測っておりますが、各教科に関する調査の中に、学びに向かう・人間性については入っておりませんので、これについては、意識調査のほうにそれに近い質問があるというような状況になっております。

D層の指導については、今後こちらについては、校長連絡会等でも示しながら、やはりこのD層の底上げというところに、どのように力を入れていくかは考えていただくとともに、というかお伝えしていくとともに、新しい学習指導要領では、ある程度柔軟な授業時数の使い方というのが示されていますので、このあたりが、学校がD層の引上げに力を入れる際の鍵になるかなというふうに今考えているところでございます。いずれにしても、このD層への指導、放課後指導等と併せてしっかりやっていくように伝えていきたいと考えております。

以上です。

【教育長】 吉村職務代理者。

【吉村教育長職務代理者】 どうもありがとうございます。

すみません。1点だけ質問で、たまたま今日このアクションプランという冊子が机上に置かれていて、この中の10ページに、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という、全国学力調査の結果が出ていて、これは去年の令和6年度の、品川区は、幸せな気持ちになることがある、あるいは、ややそう思うかな、を合わせると、非常に高いのだけれども、東京や全国より若干低いのです。これは、今年度どうなったか今、分かりますか。小学校の前期課程のほうです。

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 今年度、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という質問でございますが、今回は品川区が、東京都、全国よりも上回る結果となっております。

【吉村教育長職務代理者】 肯定的な割合が？

【指導課長】 よくあるというのが、全国と東京都を上回っております。それから、時々あるというのも、わずかですが東京都と全国を上回る結果となっております。

【吉村教育長職務代理者】 分かりました。ありがとうございます。

【教育長】 ほかにはございますか。

では、令和7年度品川区学力定着度調査及び令和7年度全国学力・学習状況調査の結果については、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【教育長】 では、本件は了承いたします。

次に、日程第2、報告事項6、区立学校におけるいじめの重大事態の発生について。

本件は区の事務事業に係る意思形成過程における案件ですが、事務局としては、会議の扱いについてどのように考えますか。

教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】 区立学校におけるいじめの重大事態の発生についてにつきましては、内容に個人情報が含まれており、個別のいじめ事案に関する協議、報告の場でもあります。

したがって、公正または適正な意思決定を確保する観点から、非公開の会議とすることが適切であると判断いたします。

【教育長】 教育総合支援センター長より説明がありました。

本件は、品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき、非公開の会議とし、会議日程を変更して、全ての会議の終了後に会議を開くこととしますが、御異議ございませんか。

（「はい」の声あり）

【教育長】 異議なしと認め、本件については、そのように決定いたしました。

次に、日程第3、その他、令和7年12月行事予定について説明をお願いします。

庶務課長。

【庶務課長】 それでは、令和7年12月行事予定について御説明いたします。

資料8をお願いいたします。

令和7年12月の予定につきましては、12月9日火曜日及び23日火曜日、いずれも14時から定例会を予定しております。また、両日とも16時から総合教育会議を予定しておりますので、あわせて御予定につきまして、どうぞよろしくお願い申し上げます。

説明は以上です。

【教育長】 質疑はございますか。

では、令和7年12月行事予定については、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【教育長】 では、本件は了承いたします。

それでは、続いて、非公開の会議を開きます。

— 了 —